

ところざわ倶楽部サークル発表会

# 「地域の自然を考える会」



2016年9月28日

はじめに

# ところざわ倶楽部について

- ▶ ところざわ倶楽部の生い立ち
- ▶ ところざわ倶楽部の会則
- ▶ サークル活動の運営
- ▶ ところざわ倶楽部の目的
- ▶ 二年次の研究課題を継続する

## ところざわ倶楽部の生い立ち

- ▶ 市民大学の14期生の修了にあたり、修了生のOB・OG会の受け皿について役員会で検討された。
- ▶ 修了生が150名と多数であったため、先行していた「市民大学OB会」「さんさん会」での受入れは無理と断られた。
- ▶ 役員会と事務局とで検討を行い、「ところざわ倶楽部」が立ち上げられた。

## ところざわ倶楽部の会則

- ▶ ところざわ倶楽部の会則は、前述を前提として決めた経緯から作成
- ▶ 会員増加を予測し、市民大学の基本理念を踏襲すべく検討



**やや敷居が高いと思われる内容**

# サークル中心の運営

- ▶ ところざわ倶楽部は、サークル活動中心の運営
- ▶ 連絡は各サークルの連絡網が主体
  - － 役員会、理事会（サークル選任）
  - － 総務部、事業部、広報部
- ▶ 広報紙「広場」、ホームページ

# ところざわ倶楽部の目的

- ▶ 生涯学習の理念のもと、豊かな市民社会の実現をめざし、地域に貢献すること
  - － 学習成果を地域に生かす
  - － 会員相互の親睦と情報交換
  - － その他

# 2年次の研究課題を継続する

- ▶ 世の中への発信
- ▶ 楽しみながらの自分への蓄積
- ▶ ところざわ倶楽部のサークルの方向性
  - A: 傍聴席、地球環境に学ぶ、所沢の自然と農業、アジア研究会、脳活サークル、所沢シニア世代地域デビューの会 他
  - B: 楽悠クラブ、歴史散策クラブ、ドラカン、葵の会、懐かしの映画鑑賞 他

# 地域の自然を考える会

会員構成：14期、16期 11名

常時参加は、8名程度

2年次に研究してきた課題をもう少し深く掘り下げてゆこうという事で、サークルを立ち上げました。

一つの活動のあり方として、私達の活動をご紹介させていただきます。

## 当初の基本的な考え方

- ▶ 地域〔所沢・武蔵野〕の潜在的に持っている緑という資源



このままでは、遷移により雑木林は消滅する

戦後70年 薪炭林は、燃料資源の多様化によりその使命は終わってしまった。



二次林の手入れの必要がなくなってしまった  
我々のサークルは、このようなことのならないよう  
発信したいと思っていた。

発信により



健全な武蔵野の雑木林をとりもどす

発信することを考えるならば、発信母体として  
「ところざわ倶楽部」の組織が役立つと思う。

さんさん会や市民大学OB会でも、組織は使える  
と思うが、「ところざわ倶楽部」が発信的な会  
にはふさわしいものと考えられる。



これらは、上手に使ってもらおうと適切な発信ができると思われる。  
※ われわれの会は、残念ながらそれができなかった。

# 主な現在の活動

## ▶ トトロの森12号地の管理

低木伐採、下草刈りなどの里山保全作業



## ▶ トトロの森7号地

タケノコ狩り

# 主な現在の活動

## ▶ 身近な水環境の全国一斉調査

全国の市民団体と国土交通省の連携のもと、公益財団法人「河川財団」の河川整備基金の助成により実施。

- 6月の第1日曜日
- 柳瀬川の4地点
- 所沢北高校と連携



# 主な現在の活動

- ・ **早稲田大学WAVOC活動への参加**

大堀先生との関わりから

例： ・ 外来種の植物の除去

・ オオムラサキの卵の数量調査など

- ・ **糀谷八幡湿地**

苗床作り、

田植え作業



# まとめ

- ▶ 是非「ところざわ倶楽部」の組織を上手に使い、活かすことを考えていただきたい。